

自己評価・外部評価 評価表

| タイトル | 項目番号 | 項目 | 実施状況 | | | | コメント | 外部評価コメント |
|-------------------------------------|------|---|-----------|-----------------|-----------------------------|---------------------------------|--|--|
| | | | できて いる | ほぼ できて いる | が 多く できて いない こと | 全 く で て い な い | | |
| | | | | | | | | |
| I 構造評価 (Structure) 【適切な事業運営】 | | | | | | | | |
| (1) 理念の明確化 | | | | | | | | |
| サービスの特徴を踏まえた理念の明確化 | 1 | 当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている | ○ | | | | 松涛会の理念「医療・介護・福祉の連携により地域社会に貢献いたします」を掲げ、事業所独自の目標も掲げている。 | ・理念の明確化(事業所独自のサービスの明確化)により、サービス内容がすぐに理解できることは大事である。 ・今後も理念に基づいた支援をお願いします。 |
| (2) 適切な人材の育成 | | | | | | | | |
| 専門技術の向上のための取り組み | 2 | 管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している | ○ | | | | 理念の内容を十分理解し、事業所独自の目標も理解し、それに基づいたサービスが提供できるよう徹底している。 | ・理念が明確化し、サービスを継続的に提供するためには、研修(人材育成)・情報の共有(介護・看護を問わず)が必要であり、誰でも同じサービスを提供できることになれば、サービス提供者各人の負担の軽減につながるのでは。 ・今後も理念に基づいた支援をお願いします。 |
| | 3 | 運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している | ○ | | | | 年間計画に沿って1回/月、研修を行っている。 また、法人内研修も毎月25日行われ、外部研修を受ける機会もあり参加している。 | ・理念が明確化し、サービスを継続的に提供するためには、研修(人材育成)・情報の共有(介護・看護を問わず)が必要であり、誰でも同じサービスを提供できることになれば、サービス提供者各人の負担の軽減につながるのでは。 ・引き続き、研鑽に努めていただけたらと思います。 |
| | 4 | 管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している | ○ | | | | 職員一人一人の適正に配慮し配置している。訪問開始時は、同行訪問し指導や確認を行っている。 | ・理念が明確化し、サービスを継続的に提供するためには、研修(人材育成)・情報の共有(介護・看護を問わず)が必要であり、誰でも同じサービスを提供できることになれば、サービス提供者各人の負担の軽減につながるのでは。 ・適切に実施されているのではないのでしょうか。 |
| 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保 | 5 | 介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている | ○ | | | | 同一事業内に訪問看護があり、関わりのある利用者については、話し合いをする等、情報の共有が図れている。 | ・理念が明確化し、サービスを継続的に提供するためには、研修(人材育成)・情報の共有(介護・看護を問わず)が必要であり、誰でも同じサービスを提供できることになれば、サービス提供者各人の負担の軽減につながるのでは。 ・チームケアが大切だと思います。 |
| (3) 適切な組織体制の構築 | | | | | | | | |
| 組織マネジメントの取り組み | 6 | 利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適かつ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている | ○ | | | | 利用者の特性を把握し、状況に応じてシフトをチェンジする等工夫し、人材配置を行っている。 | ・前記②～⑤関連し、サービス提供の反省点を点検し、新たな改善(会議による助言、配置転換)を図っていくことは大事である。 6箇月に1回の会議開催は最新の情報提供するには間隔が空き過ぎる、3箇月に1回がよい。 ・適切に実施されていると思います。 |
| 介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映 | 7 | 介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている | ○ | | | | 平成30年度より6月に1回以上の会議開催を行う事と内容が変更になった。状況によっては開催数を増やしたいと考えている。 会議で得られた助言等は、サービス提供時に反映させている。 | ・前記②～⑤関連し、サービス提供の反省点を点検し、新たな改善(会議による助言、配置転換)を図っていくことは大事である。 6箇月に1回の会議開催は最新の情報提供するには間隔が空き過ぎる、3箇月に1回がよい。 ・会議に出た意見を業務に活かしてもらえればと思います。 |

自己評価・外部評価 評価表

| タイトル | 項目番号 | 項目 | 実施状況 | | | | 自己評価 コメント | 外部評価コメント |
|--|------|--|-----------|-----------------|-----------------------------|------------------|--|---|
| | | | できて いる | ほぼ できて いる | が 多く できて いない こと | 全く できて いない | | |
| | | | | | | | | |
| (4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備 | | | | | | | | |
| 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備 | 8 | 利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている | | ○ | | | 援助終了後は、必ず事務所に戻りサービス実施記録に記入。それにより利用者状況を把握する事ができる。また、申し送りノートを活用し、情報の共有を図っている。 | ・サービス実施記録の記入は、利用者の状況が明確化し情報の共有も図られる。 ・ICTの活用の検討はどうなったのでしょうか。 |
| (5) 安全管理の徹底 | | | | | | | | |
| 職員の安全管理 | 9 | サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等) | | ○ | | | 安全運転教育講習会への参加、夜勤者には防犯ブザーを携帯する等、交通安全、夜間の安全への対策を行っている。 最近の災害は危険度が高い為、更なる対策を講じる必要がある。 | ・職種の性質上、より多くの安全・防災対策が求められる。事前に可能性のある防災等を想定し対策を講じて置くことは大事である。 ・職員の安全には常に配慮をお願いします。 |
| 利用者等に係る安全管理 | 10 | 事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている | | ○ | | | 雇用時に個人情報保護に関する誓約書を取り交わしている。 秘密保持に関する研修を行い、個人情報の取り扱いについて徹底している。 | ・情報の共有、個人情報の保護の問題。 そのためには、職員間の研修、信頼関係の構築が重要になってくる。 ・今後も徹底をお願いします。 |
| II 過程評価 (Process) | | | | | | | | |
| 1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 | | | | | | | | |
| (1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成 | | | | | | | | |
| 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施 | 11 | 利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている | | ○ | | | 利用者の24時間の生活全体を確認し、排泄、服薬等サービス状況に応じた時間や、支援内容をその都度見極めている。 | ・利用者の日々の状態を記録し、情報を共有し会議を通して提案・助言・改善をすることは大事である。 ・今後もスタッフのアセスメント力向上に努めていただけたらと思います。 |
| | 12 | 介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている | | ○ | | | 看護師がモニタリング時にご利用者へ助言すると共に、介護支援についても維持・拡大に向けた提案・助言を行っている。 | ・利用者の日々の状態を記録し、情報を共有し会議を通して提案・助言・改善をすることは大事である。 ・医療と介護の連携、とても大切なことだと思います。 |
| 利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成 | 13 | 利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている | | ○ | | | できていることを認め、できていないことはどのように援助を加えれば良いかを具体的に考える様にしている。また、本人がどうありたいかを尋ねるように心がけている。 | ・利用者の日々の状態を記録し、情報を共有し会議を通して提案・助言・改善をすることは大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| | 14 | 重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている | | ○ | | | 利用者のほとんどは何らかの疾患を抱えて生活している。今をしっかりと見つめつつ、過去の状況をも振り返るとおのずと問題点が見えてくる。その問題点を見極めて未来像を描くような計画を作成している。 | ・利用者の日々の状態を記録し、情報を共有し会議を通して提案・助言・改善をすることは大事である。 ・その方らしい生活が継続できるような援助をお願いします。 |

自己評価・外部評価 評価表

| タイトル | 項目番号 | 項目 | 実施状況 | | | | 自己評価 コメント | 外部評価コメント |
|---|------|---|-----------|-----------------|-----------------------------|------------------|---|---|
| | | | できて いる | ほぼ できて いる | が 多く できて いない こと | 全く できて いない | | |
| | | | | | | | | |
| (2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し | | | | | | | | |
| 計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供 | 15 | 計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている | ○ | | | | 利用者の体調不良や精神面での不安等、訪問した時の心身の状況に合わせ、訪問回数や時間帯を変更するなど工夫、調整を柔軟に行なっている。 | ・利用者の日々の状態が変化することを、観察し、これを共有し、サービスの内容を工夫していくことが大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| 継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映 | 16 | サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている | ○ | | | | モニタリングにおいては、身体症状の変化だけでなく、ちょっとした悩み事や心配事を抱えていることを知る機会になる。できるだけ早く適切に対応することが安心に繋がると考える。 | ・利用者の日々の状態が変化することを、観察し、これを共有し、サービスの内容を工夫していくことが大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| (3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供 | | | | | | | | |
| 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供 | 17 | より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている | ○ | | | | 同一建物内に訪問看護事業所がある為、連携が取りやすく、看護、介護それぞれの専門性を活かした役割分担が行われている。 | ・介護・看護の専門性を生かした役割分担は大事である。そのためには、各人の意思の疎通、情報の共有が必要である。 ・連携がとりやすい環境でよいと思います。 ・24時間定期訪問随時対応が行われている為、訪問看護ステーションとしては、随時、利用者の状況や変化等の報告を受けやすく、訪問看護としての対応、24時間ケアサポートに対しての指導・助言がタイムリーに行なわれ、協力体制による信頼が高まり、お互いに利用者への対応の充実が図られている。 |
| 看護職によるサービス提供に関する指導、助言 | 18 | 看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている | ○ | | | | 低栄養や脱水予防時の支援の在り方など、看護職の視点から対応策、病状予測など、アセスメントからの指導、助言が行われている。 | ・介護・看護の専門性を生かした役割分担は大事である。そのためには、各人の意思の疎通、情報の共有が必要である。 ・連携がとりやすい環境でよいと思います。 ・医療的な視点やケアの在り方について訪問看護が行った指導や助言を確実に実施しており、利用者への安全で安心な対応が行われている。 |
| (4) 利用者等との情報及び意識の共有 | | | | | | | | |
| 利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供 | 19 | サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている | ○ | | | | 契約書・重要事項説明書にて、サービスの趣旨や目的など契約時に十分に説明を行い、同意を得ている。 | ・サービス内容等を契約書・重要事項説明書で十分に説明をすること(当然利用者等はそれを理解することが求められる)、利用者の利用状況を随時家族に報告する事は大変大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| 利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供 | 20 | 作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている | ○ | | | | 作成した訪問介護計画書の目標及び内容について説明を行い、その都度署名・捺印をいただいている。 | ・サービス内容等を契約書・重要事項説明書で十分に説明をすること(当然利用者等はそれを理解することが求められる)、利用者の利用状況を随時家族に報告する事は大変大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| | 21 | 利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている | ○ | | | | 利用者の状況の変化等については、随時家族に報告している。報告の手段としては、連絡ノートの活用やメール等も活用している。 | ・サービス内容等を契約書・重要事項説明書で十分に説明をすること(当然利用者等はそれを理解することが求められる)、利用者の利用状況を随時家族に報告する事は大変大事である。 ・適切に実施されていると思います。 |

自己評価・外部評価 評価表

| タイトル | 項目番号 | 項目 | 実施状況 | | | | コメント | 外部評価コメント |
|---|------|--|-----------|-----------------|-----------------------|-----------------------------|---|---|
| | | | できて いる | ほぼ できて いる | が できて いない こと | 全 く で て い ない | | |
| | | | | | | | | |
| 2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント | | | | | | | | |
| (1) 共同ケアマネジメントの実践 | | | | | | | | |
| 利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案 | 22 | ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている | ○ | | | | 利用者の状況に変化があった場合は報告、相談し、情報の共有が図れている。また、援助内容の変更に伴いケアプランの変更があった場合は、サービス担当者会議に出席し、内容の変更に関わる情報の共有がされている。また、モニタリング結果を毎月ケアマネージャーに報告している。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・適切に実施されていると思います。 |
| | 23 | 計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている | | ○ | | | プランの見直しなど変更する場合はケアマネに提案している。フォーマル・インフォーマルサービスについては、包括支援センターを活用し、必要に応じ提案できるようにする。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・今後も包括支援センターの活用をお願いします。 |
| 定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供 | 24 | サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている | ○ | | | | 利用者の現状の報告、計画目標の達成状況等を、サービス担当者会議の中で報告し、多職種と情報を共有している。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・多職種連携、とても大切なことです。 |
| (2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献 | | | | | | | | |
| 利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討 | 25 | 利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目) | | ○ | | | サービス担当者会議にて、介護保険だけでは支援できない通院介助について、保険外サービスで包括的にサポートができるようにしている。混合介護の導入を行政も検討しているが、保険外サービスを利用する事で、包括的なサポートが可能になると考える。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・利用者のために柔軟な対応をお願いします。 |
| | 26 | 病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目) | | ○ | | | 「切れ目のない」点に注目すると退院・退所時は重要なポイントとなる。医師・看護師・OT・PT・CP・栄養士・薬剤師などの専門職とのカンファレンスの機会には参加をするようにしている。更に、その内容をスタッフ間で共有するように今後共心がけていきたい。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・今後もシームレスな援助を心がけていただけたらと思います。 |
| 多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案 | 27 | 地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目) | | ○ | | | サービス担当者会議で役割分担等検討はされているが、積極的に、包括的なサポート体制の構築の為に役割分担や連携方策等について協力して進める必要がある。 | ・利用者の状況の変化に応じた次なる対策、多職種連携、このためには情報の共有・人間関係の構築により自由・柔軟な提言、協力体制が必要である。 ・ケアマネさんとしっかり連携していただけたらと思います。 |

自己評価・外部評価 評価表

| タイトル | 項目番号 | 項目 | 実施状況 | | | | コメント | 外部評価コメント |
|---|------|---|------|-----|-----|---|--|----------|
| | | | できて | ほぼ | が | 全く | | |
| | | | いる | できて | できて | できて | | |
| 3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 | | | | | | | | |
| (1) 地域への積極的な情報発信及び提案 | | | | | | | | |
| 介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信 | 28 | 介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている | | | ○ | 会議議事録を作成し、事業所内で常時閲覧できるようにしているが、今後ホームページなどで開示できるよう検討したい。 | ・地域への積極的な情報提案発信について地域の方がどれだけ情報を知り得るか、いかなる情報発信が有効か検討の余地がある。 ・ホームページの活用期待しています。 | |
| | 29 | 当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている | | | ○ | 定期的な介護・医療連携推進会議で情報の発信は行っているが、地域に向けてより一層周知を行う必要がある。 | ・地域への積極的な情報提案発信について地域の方がどれだけ情報を知り得るか、いかなる情報発信が有効か検討の余地がある。 ・まちづくり協議会などへ周知を図ってみてはどうか。 | |
| (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画 | | | | | | | | |
| 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解 | 30 | 行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している | | | ○ | 地域包括ケアシステム計画の内容を把握し、地域包括ケアシステムでの役割を十分に理解している。 | ・「地域包括システム」の構築というが、私にはその意味がよく理解できない。 ・包括支援センターで「地域包括システム」の出前講座を行ったことがあります。 | |
| サービス提供における、地域への展開 | 31 | サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている | ○ | | | 特定の建物等に限定する事なく、地域に向けてサービス提供を積極的に展開している。 | ・「地域包括システム」の構築というが、私にはその意味がよく理解できない。 ・今の姿勢を続けていただけたらと思います。 | |
| 安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等 | 32 | 当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている（※任意評価項目） | | | ○ | 前回の介護医療連携推進会議において、地域代表者からインフォーマルサービスに対する意見が出たが、公に提案するに至っていない。今後の課題として取り組んでいきたい。 | ・「地域包括システム」の構築というが、私にはその意味がよく理解できない。 ・個別ケースの積み重ねが、地域課題の発見につながります。何か問題が起きた時、包括支援センターにご相談いただけたらと思います。 | |
| Ⅲ 結果評価 (Outcome) | | | | | | | | |
| サービス導入後の利用者の変化 | 33 | サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている | | | ○ | 安全で安心した生活といっても一人一人求めるものが違う為、そのひとに相応しい内容である事を心がけている。生活全体に着目しつつ、個別計画の達成に向けてサービスを提供している。 | ・この24時間訪問ケアサポートやすおかのサービスが定着すれば在宅介護・看護を受ける利用者にとって恩恵である。 ・その人らしい暮らしの継続のために、引き続き支援お願いします。 | |
| 在宅生活の継続に対する安心感 | 34 | サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている | | | ○ | できるだけ在宅での生活を続けたいとの願いを持っている方が多い反面、身体的・精神的な疾患を抱えながら、生活のしずらさをと向かい合っている姿に直面する。家族と協力しながら在宅生活を継続できる様検討を重ねている。 | ・この24時間訪問ケアサポートやすおかのサービスが定着すれば在宅介護・看護を受ける利用者にとって恩恵である。 ・その人らしい暮らしの継続のために、引き続き支援お願いします。 | |